

# マレーシア・ジョホール州で進むイスカンダル開発計画

シンガポール事務所

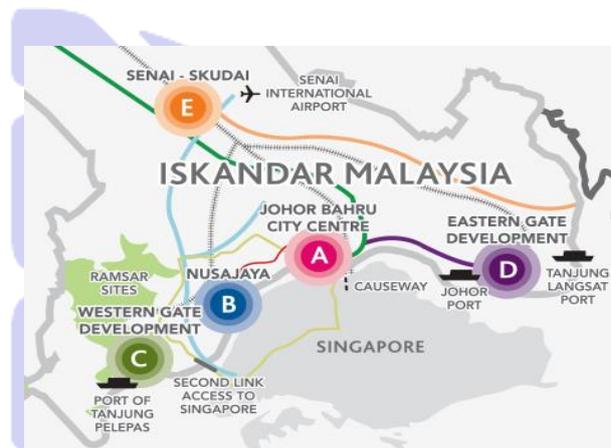
マレーシアの南端に位置するジョホール州。シンガポールと海を隔てて隣合う同州の南側エリアでは、イスカンダル開発計画に基づく大規模な開発が進められています。シンガポール国土の約3倍にあたる2,217 km<sup>2</sup>の広大なエリアを舞台に、大型商業施設やテーマパークをはじめ、教育機関や工業団地、住宅地といった開発が着々と進んでいます。

このたびイスカンダル開発計画に基づき開発が進むタンジュン・ペラパス港を視察する機会を得ましたので、同計画の概要と併せて報告します。

## 1. イスカンダル開発計画の概要

イスカンダル開発計画は、マレーシア政府による経済開発戦略の一環として2006年に発表されました。シンガポールと同一の経済圏として発展が期待され、人口は140万人(2006年)を300万人(2025年)に、1人当たりGDPは14,790USドル(2006年)を31,100USドル(2025年)に押し上げるといった目標が設定されています。

重点分野として「金融」、「観光」、「教育」、「物流」、「医療」、「クリエイティブ」のサービス分野、「電気・電子」、「油脂・石油化学」、「食品・農産物加工」の製造業分野の計9つを設定し、A～Eの5つに分けられた各開発エリアにて開発が進められています。



開発エリア全体図

(出典：Iskandar Malaysia ホームページ)

A ジョホールバル都市部	国際貿易、金融センター、サービスセンター（コースウェイでシンガポールと連結）
B ヌサジャヤ地区	海外大学の誘致、テーマパークなどのエンターテイメント・医療観光などのサービス産業、州政府機能
C タンジュン・ペラパス港周辺区	物流拠点、自由貿易区域、石油備蓄港、（セカンドリンクでシンガポールと連結）
D パシル・グダン港周辺区	電気・化学・油脂化学製品の製造業、石油化学備蓄港
E セナイ空港周辺区	物流拠点、ハイテク産業・宇宙関連産業、商業施設、サイバースティ

マレーシア政府は同計画の推進にあたり税制優遇など投資誘致策の充実を図っており、2015年6月までの累積投資額は1,725億リンギ(約5兆1,750億円)となりました。

そのうち外国からの投資は 39%を占めており、海外からの投資も含め順調な開発が続いています。

## 2. タンジュン・ペラパス港

タンジュン・ペラパス港（Port of Tanjung Pelepas : PTP）はCエリアに位置し、東南アジア各国に近い地理的優位性と大型船も入港できる深度（16m～18m）を強みに、同計画の物流拠点として重要な役割を担っています。現在世界各地 190 の港と航路で結ばれ、コンテナ取扱量は 760 万 TEU（2013 年）と世界で第 19 位、東南アジアでは第 3 位の規模を誇ります。現在も同港は拡張が進められており、2018 年までに取扱許容量を 1,250 万 TEU にまで拡大させる計画を持っています。

同港はコンテナ港部分と隣接する自由貿易区域で構成されています。自由貿易区域は 5 つに分けられて開発中で、完成後は約 6,419km<sup>2</sup>の広さとなる見込みです。同区域内では輸入税が課されません。現在入居しているのは 40 社、投資額は 27 億リンギ（約 810 億円）となっており、既に 1 万 5,000 人を超える雇用を創出しています。



タンジュン・ペラパス港

また、同港周辺のインフラ環境も整備されてきており、海岸高速道路や東部高速道路といった陸上交通網をはじめ港湾や空港など各施設との円滑な連結が進んでいます。例えば、同港とセナイ空港は 30 分で、シンガポール・チャンギ国際空港には 90 分でアクセス可能となっています。

## 3. 今後について

マレーシア政府は 2020 年までに経済、政治、文化などあらゆる面で先進国入りすることを目指しており、イスカンダル開発計画はその成長の一翼を担うことが期待されています。今後も同計画の動向に注視してまいります。

（三原所長補佐 鹿児島県派遣）